

研究構想図

学校教育目標
よく学び よく遊び
やさしく かしく たくましく

<p style="text-align: center;">児童の実態</p> <p>○令和4年度の各学力調査の等の各学年の平均正答率は、概ね全国・区の平均正答率を上回っている。 △課題解決に向けて、自分で考えて取り組むことが苦手である。 △身に付けた知識や技能、様々な経験などを根拠として思考し、判断することが課題である。</p>	<p style="text-align: center;">令和5年度 中野区 指導目標より</p> <p>一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育む。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの能力を最大限に伸ばす教育の実現(令和5年度の重点)
--	--

研究主題 **思考力・判断力・表現力等を育てる問題解決的な学習の展開**
～ 令和の日本型学校教育の実現を通して ～

研究の仮説

個別最適な学びや協働的な学びを取り入れた問題解決の場面を設定していくことで、主体的・対話的な学びが促進され、児童の思考力・判断力・表現力等を養うことができる。

問題解決の場面の捉え

(理科)

①自然の事物・現象に対する気付き②問題の設定③予想や仮説の設定④検証計画の立案
⑤観察・実験の実施⑥結果の処理⑦考察⑧結論

(社会)

①学習問題の設定②問題解決の見通し③情報収集④考察・選択・判断⑤まとめ

目指す児童像

低学年	中学年	高学年
<p>生活科</p> <p>身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考えることができる子。</p>	<p>理科</p> <p>自然事象に対して、差異点や共通点を基に問題を見いだしたり、根拠のある予想や仮説を発想したりできる子。</p> <p>社会科</p> <p>社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えることができる子。</p>	<p>理科</p> <p>自然事象に対して、解決の方法を発想したり、より妥当な考えをつくりだしたりできる子。</p> <p>社会科</p> <p>社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えることができる子。</p>

研究主題に迫るための手だて

